

日曜特番

第35回ツール・ド・のと

【1面に本記】



今年大会は、自転車界の最盛期を迎えている。選手も、観客も、ともに最高のパフォーマンスを期待している。大会は、9月17日(日)から21日(金)まで、5日間、全5ステージで行われる。スタートは、能登町。ゴールは、能登町。コースは、能登半島の美しい風景を堪能できる。大会は、地元企業や団体、個人から多くの選手が参加している。大会は、地元企業や団体、個人から多くの選手が参加している。



1906(明治39)年10月15日付の北國新聞に掲載された鳳山神社神門前のイラスト。スタート時の大にそびえ立っている。

ツールの歴史は、1906(明治39)年10月15日付の北國新聞に掲載された鳳山神社神門前のイラスト。スタート時の大にそびえ立っている。ツールの歴史は、1906(明治39)年10月15日付の北國新聞に掲載された鳳山神社神門前のイラスト。スタート時の大にそびえ立っている。

16日に開幕したツール・ド・のと400。開行後、北國新聞主催には、国内の自転車レースに詳しい大東文化大教授のシャリリスト・野嶋剛さんが取材を兼ねて参加した。ツールの歴史は、1906(明治39)年10月15日付の北國新聞に掲載された鳳山神社神門前のイラスト。スタート時の大にそびえ立っている。

野嶋剛さん語る

大東文化大教授・シャリリスト

「レジェンド」もっと人呼べる
景色、運営、声援を評価

初日を完走し、ツール・ド・のとの魅力を語る大東文化大教授のシャリリスト・野嶋剛さん。一輪車市マリンタウンで、大会の魅力を語る。



大会は、地元企業や団体、個人から多くの選手が参加している。大会は、地元企業や団体、個人から多くの選手が参加している。

明治の「大競走」取材で本社へ 歴史的な物語がある

以上がきっかけです。野嶋剛さんは、明治の「大競走」取材で本社へ歴史的な物語がある。野嶋剛さんは、明治の「大競走」取材で本社へ歴史的な物語がある。



2回目の参加となった野嶋剛さん。志賀町内



笑顔でペダルをこく野嶋剛さん